

金子光晴の児童文学

台湾大学 洪瑟君

金子光晴の児童文学作品は、昭和 18 年に出版された絵本『マライの健ちゃん』を除き、全てが大正 13 年から昭和 16 年までの期間に発表され、主に『少年倶楽部』、『少女倶楽部』、『婦人子供報知』などの子供向けの雑誌に掲載されていた。作品の内容を見ると、童話が大部分を占めており、次に紹介文があり、詩人としての光晴が得意とする詩は意外にも少ない。童話の舞台が主に西洋に設定されており、日本や中国を舞台にした作品が僅かであるが、光晴の童話には将軍、兵士、軍人などの人物が頻繁に登場し、戦争の描写も頻出している。そのため、先行研究では「反戦詩人」という光晴の評価を再検討する必要があると指摘されている。光晴は児童文学作品において「戦争」という描写を通して一体何を表現しようとしたのか。本稿では、光晴の児童文学作品の内容を発表時期や掲載誌の編集方針、時代背景とともに分析し、光晴の児童文学作品における「戦争」の意味を考察したい。